

マイティ・ハート／愛と絆

2007(平成19)年12月2日鑑賞(数島シネポップ)

★★★



第1章

ハリウッド映画もいよいよ変容か？

監督＝マイケル・ウィンターボトム／プロデューサー＝ブラッド・ピット／デデ・ガードナー／アンドリュー・イートン／原作＝マリアンヌ・パール『マイティ・ハート 新聞記者ダニエル・パールの勇気ある生と死』（潮出版社刊）／出演＝アンジェリーナ・ジョリー／ダン・ファターマン／アーチャー・バンジャビ／イルファン・カーン／ウィル・パットン／デニス・オハラ／アドナン・シディキ／ゲイリー・ウィルメス（UIP 配給／2007年アメリカ映画／108分）

…… 2002年1月にパキスタンで実際に起きた、新聞記者の拉致殺害事件を描いた映画だが、日本人には少し難しいのが難点。夫の安否を気づかう身重の妻という設定がポイントで、アンジェリーナ・ジョリーがそんな「待つ女」を熟演！ 結果は予想どおりだが、その中で示される愛と絆の強さをしっかりとかみしめたいもの……。

『Mr. & Mrs. スミス』の2人が……

この映画は主演のアンジェリーナ・ジョリーが目立っているが、この映画を誕生させた陰の功労者はブラッド・ピット。アンジェリーナ・ジョリーとブラッド・ピットの2人は『Mr. & Mrs. スミス』（05年）で共演したことが縁で結婚・出産となったことは周知のとおり。

まず、ノンフィクション『マイティ・ハート 新聞記者ダニエル・パールの勇気ある生と死』に興味をもったブラッド・ピットは、自身の製作会社プランBエンタテインメントでその映画化権を買いとった。そして、アンジェリーナ・ジョリーを主演と決定し、監督をマイケル・ウィンターボトムに指名した。これによって、この映画が誕生することになったわけだ。

ハリウッドでは、このブラッド・ピットのように俳優だけではなく、自身で製作会社をつくってプロデュースしたり、自ら監督をしたりするケースが最近増えている。日本でも中井貴一プロデュース・主演による『鳳凰 わが愛』（07年）などのケース

が少しずつ出ているが、その数はまだまだ少ない。それは、なぜ……？

すべて実際の出来事だが……？

アンジェリーナ・ジョリー演ずるマリアンヌ・パールは実在の女性で、『マイティ・ハート 新聞記者ダニエル・パールの勇気ある生と死』の作者。また2002年1月にパキスタンでテロリストに誘拐され殺害された夫ダニエル（ダン・ファターマン）も実在の人物。そして事件当時妊娠中だったマリアンヌ・パールが事件後、アダム君を産んだのも事実。つまり、この映画は『マイティ・ハート 新聞記者ダニエル・パールの勇気ある生と死』にもとづき、2002年1月23日から2月21日までの約1カ月の間に現実に起きた出来事をドキュメンタリータッチで描いたものだ。

したがって、マイケル・ウィンターボトム監督がこの映画でリアリティを追求したのは当然で、その狙いは見事に実現しているが、その反面日本人の私たちには少し難しい点も……。

日本人には少し難しい その1——マリアンヌ側

日本人に少し難しい点の第1は、マリアンヌ側の人間たちの立場や役割。マリアンヌはフランスのラジオ局の記者だが、夫のダニエルはウォールストリート・ジャーナル社のジャーナリストとして活動していたもの。2002年1月の今、マリアンヌは妊娠5カ月。そしてダニエルの今回の仕事はジラニ師の取材で、これが帰国前の最後の仕事になるはずだった。しかし、約束していたディナーの席にダニエルが現れないため異変に気づいたもの。

映画全般を通してマリアンヌの直近でマリアンヌを励ますのは、①女性記者アスラ・ノマニ（アーチャー・パンジャビ）、②ウォールストリート・ジャーナルのステイヴ・レヴァイン（ゲイリー・ウィルメス）、③同じくウォールストリート・ジャーナルのジョン・バッシー（デニス・オハラ）の3人。この3人はマリアンヌの心の支えとして非常に大切だが、ダニエルの所在調査や犯人逮捕には何の力もないのは当然。

これに対して、拉致されたダニエルの所在調査と救出のために活動するのは、④キャプテンという愛称で呼ばれるCID（テロ対策組織）のリーダーのハビブ（イルファン・カーン）、⑤アメリカ領事館の外交保安問題を担当するランダル（ウィル・パットン）の2人。ストーリー展開の中、④のハビブの役割が非常に大きいことがわかる

のだが、この他にも当然FBIの捜査員たちも捜査をしている様子。しかし、残念ながら私たち日本人には、そこらあたりの組織や人間たちの立場、役割に少しわかりにくい点が……。

日本人には少し難しい その2——テロリスト側

他方、テロリスト側の組織や人間たちの立場や役割も日本人には少し難しい。最初に出てくるのはモサド（イスラエル秘密諜報機関）。当初ダニエルが行方不明となったのはダニエルがモサドのスパイだったからだとの説が新聞記事に出たが、さてその真偽は……？ 次にダニエルが取材しようとしていたジラニ師がどんな人物かということだが、これも結構難しい。

そして最終的に重要な鍵を握る人物としてバシールという人物が浮かび上がっている。彼の本名はオマールで、イギリス生まれのジハード（聖戦活動家）として知られるパキスタン人とのこと。彼がジラニの名前を利用してダニエルをおびき寄せ、誘拐する計画を立てたらしいのだが、どうも、そこらあたりの理解が日本人にはイマイチ……。

アンジェリーナ・ジョリーは熱演だが……

『ベオウルフ／呪われし勇者』（07年）のアンジェリーナ・ジョリーは視覚効果だけの出演だった（？）し、『グッド・シェパード』（06年）はちょっと消化不良気味……？ その意味では、『マイティ・ハート／愛と絆』における妊婦姿での彼女の熱演は最近ではベスト。愛する夫の安否を気づかいながらじっと待つだけの女というのは、かなりしんどい役で演技力を問われる役だが、それを立派にこなしているのはさすが。また、2001年からUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の親善大使をつとめている彼女には、『すべては愛のために』（03年）や本作のような問題提起作の方がよく似合う……？

ただ、この映画はもともとテーマが単一で結果もほぼミエミエのものだから、その熱演ぶりは認めつつも、作品としては星5つというわけにはいかないというのが私の感想。パンフレットには、「カンヌ映画祭やアメリカでは絶賛の嵐」「早くも来年のアカデミー賞最有力候補作といわれる」と書かれているから、私の評価は少し厳しすぎるかもしれないが、さて、あなたの評価は……？

2007(平成19)年12月13日記